板橋酒販協同組合
志村酒販協同組合

板橋ブランド“芋焼酎”

保存版

「いたばし八丈百万石」

開発の経緯と商品説明

板橋区は、平成２０年７月に石川県金沢市と友好交流協定を締結しましたが、この時の調印式への出席者有志が、この協定を一つの形として残せないかと考え、平成１２年９月に発売した板橋ブランドの日本酒「いたばし **二輪草**」が広く区民に親しまれていることなどを考え、今回板橋ブランドの焼酎を開発することにしました。

開発に際しては、板橋区と、板橋区内にあった加賀藩下屋敷（加賀藩前田家）、そして八丈島を結ぶストーリーが語られ、その内容の概略は以下の通りです。

資料：板橋区内にあった加賀藩下屋敷と、加賀藩前田家、八丈島を結ぶ。

板橋宿は、中山道第一番目の宿場として、多くの人々の往来がありました。

加賀国金沢を本拠とする前田家と板橋宿との関わりは、慶長７年（1602）前田利常が江戸出府の際に、徳川秀忠の出迎えを板橋宿で受けたことに始まり、以後前田家は参勤交代の基本的道程に板橋宿を加えました。

現在の板橋区板橋三、四丁目、加賀二、三丁目周辺は加賀藩前田家の下屋敷が構えられていました。前田利家（としいえ）の四女で豊臣秀吉の養女である豪姫（ごうひめ）は大名宇喜多秀家（うきたひでいえ）の正室として嫁ぎました。その後、秀家は関ヶ原合戦に敗れ二人の息子と八丈島に流されました。豪姫は生涯、秀家と二人の息子の身を案じ続け、これに感じ入った豪姫の弟である加賀三代藩主 前田利常が幕府と交渉した結果、１年おきに八丈島へ米などの物資の輸送を許されました。以後幕末まで前田家は八丈島の秀家子孫に援助を続け、明治になり明治政府から罪を許された秀家の子孫は、前田家から旧加賀藩下屋敷の約二万坪の土地と当面の資金を与えられここに入植しました。そして、秀家の供養塔が東光寺（板橋区板橋四丁目）に建立されました。

商品説明：いも焼酎　　原材料：麦麹・芋　　アルコール分 25%　内容量：700ml

現在八丈島で芋焼酎と言えば芋と麦のブレンド焼酎が主流ですが、この商品はブレンドではなく麦麹芋掛け焼酎。麦麹の香ばしさが芋の甘みを全面にぐっ！と押し出してくれて、絶妙な味わいです。伊豆諸島特有の文化である麦麹の特徴が感じられる芋焼酎となっております。香りがよく、すっきりした飲み口でお湯や水で割っても、本来の味がしっかりと残る焼酎です。

以上